

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.84をお届けいたします。

YouTube



FMD
OWNER'S CLUB



10月のTOPICS

■ レムナント様リポ蛋白コレステロールと血管内皮機能

レムナントは動脈硬化惹起性として知られる TG-rich リポ蛋白であり、冠動脈硬化症のリスクが高い家族性Ⅲ型高脂血症が高レムナント血症の典型例として古くから知られています。それ以外に食後高脂血症、糖尿病をはじめ病態によってレムナントの主たる組成が異なることも知られています。しかし、レムナント検査の目的には、いずれの組成においても動脈硬化惹起性という臨床的意義があり、TG や VLDL-C（超低比重リポ蛋白コレステロール）よりも感度の高い臨床的意義をもつリポ蛋白分画として知られています。また、LDL-C が 100mg/dL 未満にコントロールされている場合でもレムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）の高値は独立したリスクであることが報告されています。

RLP-C 測定は、TG-rich リポ蛋白を特異的な抗体を用いて分離分画し、そのコレステロール濃度を測定する直接法があるが、測定法の煩雑さと微量コレステロールの測定を必要とすることから測定に一定の熟練を要します。よって主に海外では下記計算法により簡易的に求められています。

$$\text{RLP-C} = \text{TC} - (\text{LDL-C} + \text{HDL-C})$$

さて、この度中国より健診における RLP-C と血管内皮機能について比較的大規模な臨床研究発表がございましたのでご紹介します。

血管内皮機能とアテローム性動脈硬化は、心血管疾患の重要な危険因子であることが知られています。ただし、RLP-C が血管内皮機能と相関するかどうかは不明です。したがって、この研究では一般集団で RLP-C と血管内皮機能について調査することを目的としました。

この研究では、血中脂質、FMD の測定を受けた 13,237 人の被検者を調査しました。なお、FMD は UNEXEF18VG を用いて測定しました。参加者は、RLP-C 四分位数に基づいて 4 つのグループに分けられました。多変数線形回帰モデルを使用して、RLP-C レベルに従って FMD のオッズ比を求めました。

RLP-C と FMD の間に有意な負の関係が見られました ($\beta = -0.14$, $p = 0.014$)。特に慢性疾患の投薬を受けていない男性でその傾向が顕著でした。

この結果から RLP-C 高値が血管内皮機能障害の独立した予測因子であることが示されました。

J Atheroscler Thromb. 2022 Sep 13. doi: 10.5551

RLP-C を心血管リスクの管理指標として使用することは可能で、特に従来の脂質パラメータは正常で RLP-C が高値となるケースがありそのような患者にとっては RLP-C 計測が重要ですが、同時に血管内皮機能の計測も重要となります。